

対馬市景観計画(案)に対する パブリック・コメントの募集結果

1. 目的

パブリック・コメントとは、行政が意志決定をする際の政策等を事前に公表し、その案について広く市民からのご意見や情報を募集するものです。今回「対馬市景観計画(案)」について、下記のとおり実施しましたところ、次のようなご意見をいただきましたので、回答とともにお知らせします。

2. 募集期間

平成30年11月1日(木)～平成30年11月20日(火)

3. 意見応募件数

1件(1項目)

4. 意見に対する回答

意見	回答
<p>厳原城下町においては、文化史跡や石垣、さらには基本方針で掲げられているような景観に配慮された、色彩を抑えた建築物や工作物であっても、屋外広告文字がハングル文字であっては日本的な城下町の風情はなくなります。人口の減少が止まらない地元市民。対馬に投資する韓国事業者、年々数万人単位で増加していく韓国観光客。国内にある他の城下町と違い特別な環境にあることをご存知のとおりです。しかし、「対馬市景観計画(案)」の中では、屋外広告の文字(ハングル文字)について一言も触れられていません。</p> <p>大陸まで僅か50kmしかない対馬の厳原町が日本の城下町として特徴づけられてきたのは、歴史と文化、そして日本語を伝承してきたことにほかありません。</p> <p>そのような環境で、長年培われてきた厳原城下町の景観は、宿泊業者、旅行会社、飲食店などの外部の観光開発業者の経済的利益を得るための看板によって、景観のイメージが大きく変わってしまいます。特にコンパクトに出来上がった城下町の大町通り、川端通りなどの屋外広告物のイメージが韓国風になれば、日本的な雰囲気や形成された城下町の景観も、そこから零れ落ち、町全体が視覚的に異文化の町並みに様変わりして見えてしまいます。特に、年30万人以上の韓国人旅行客も、日本らしい風情や景観を感じられ、最も近い外国である対馬を訪問していると思います。</p> <p>私たちは厳原町が発展し活性化して行くためには、これら韓国人旅行客からのインバウンドを受け入れなければなりません。その観点からも、長年培ってきた城下町らしい景観を保全して行くことが重要となります。それを実行して行くためには、関係者だけでなく、まずは地域全体での意識醸成・合意形成が必</p>	<p>ご意見をいただきありがとうございます。ご意見をいただきました、ハングル文字の屋外広告については、比田勝港周辺や厳原港周辺地域を中心に一定程度見受けられる状況にあり、ご提案のような、『外国語だけの屋外広告物は避ける』『屋外広告の看板は主に日本語(公用語)を用い、外国語は4分の1程度に努める』とすべきであるという意見については重々理解できるところであります。</p> <p>しかしながら、古くから使用されているアルファベット標記された社名や商標等も数多く存在する現状もあり、一概に『外国語だけの屋外広告物は避ける』とするには、解決しなければならない課題もあるものと認識しているところであります。</p> <p>今後においては、対馬市独自の「屋外広告物条例」制定に向けて取り組みを進めることとしておりますので、検討の折の貴重な意見とさせていただきますと伴に、次年度設置する景観審議会においても継続的に協議を行いながら、「日本(特に対馬)らしい風情や景観」が損なわれないような基準の設置に向けて検討を進めて参りたいと思っておりますので、御理解・御協力の程、よろしく申し上げます。</p>

要になります。また、厳原地域住民が納得のいく仕組みづくりも必要です。

それには、厳原で暮らす私たち（ホスト）が、観光客である（ゲスト）を、誇りと自信をもって迎えられる町づくりを進めることが大切だと考えます。

なにより「日本語（母国語）の看板」は、地域住民のアイデンティティーがひとつになり、景観への意識も高まるきっかけにもなり、城下町らしい景観を維持することにつながると思われます。

そこで、貴重な歴史的遺産が点在する町、さらに2020年に建設される「対馬博物館（仮称）」と調和した厳原城下町の風情のある景観を将来に残して行くためにも、第9章の文面にそのための文章の追加を要望します。

《加筆要望文章》

第9章「屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項」の中に次のような項目を付け加えて頂くことを切望します。

『外国語だけの屋外広告物は避ける』

『屋外広告の看板は主に日本語（公用語）を用い、外国語は4分の1程度に努める』